



【上】行列の先頭

この絵図は、旧前橋藩土豊田家に伝わるもので川越藩主松平齊典の娘婿紀五郎（齊省）が松平家嫡子として初めて江戸城に登城した時のものです。藩主が領地と江戸を行き来する参勤交代ではありませんが、大名行列の様子をうかがうことが出来ます。江戸市内の行列の人数は、大名の家格に応じて決められていましたが、幕府は大人数にならないよう度々規制をしていました。

行列で目を引く槍などは、傘、長刀も含めて、その形や体裁が大名家ごとに決まっており、すぐにどの大名家分かりました（槍印）。駕籠を担ぐ六尺の着物の色も同様でした。扶箱は衣類を入れる箱です。駕籠の後ろに続く扶箱は跡箱とよばれました。金色の家紋入りの扶箱は金紋扶箱といって家格の高い一部の大名のみ使用を許されており、松平紀五郎も当時使用を許されていました。松平紀五郎は11代将軍家斉の24男で文政10年（1827）に松平齊典の婿養子に迎えられました。天保12年（1841）19歳で死去しています。

〈参考資料〉『群馬県史』通史編6 71～75頁
『前橋市史』第2巻 553～581頁、651～675頁

【下】紀五郎の駕籠周辺

